

令和4年6月30日

報道機関 各位

コロナ禍での生活不安やストレス、生活パターンの変化等により「女性に対する暴力」が増加傾向にあります。コロナ禍以前のデータから見えた結果を紹介いたします。

## 男性のオメガ3系脂肪酸摂取量と配偶者に対する暴力の関連について：エコチル調査

### ■ ポイント

富山大学学術研究部医学系公衆衛生学講座の松村健太講師らのグループは、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」のデータを用い、オメガ3系脂肪酸（青魚に多く含まれるドコサヘキサエン酸（DHA）やエイコサペンタエン酸（EPA）、エゴマ油やしそ油に多く含まれる $\alpha$ -リノレン酸など）を多く摂っている男性は、配偶者（パートナーを含む）に対して暴力を振るうリスクが低いことを明らかにしました。特に、ほとんど摂っていない男性でリスクが顕著に高いことから、オメガ3系脂肪酸を気持ち多めに摂取するように食習慣を変えることで、配偶者に対する暴力行為を減らせる可能性が示唆されました。



・この研究成果は精神医学系専門誌「Epidemiology and Psychiatric Sciences」に2022年6月23日に掲載されました。

Matsumura K et al. Male intake of omega-3 fatty acids and risk of intimate partner violence perpetration: a nationwide birth cohort – the Japan Environment and Children's Study.

・ <https://doi.org/10.1017/S2045796022000294>

本研究は環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査に係る予算を使用し行いました。

論文に示した見解は著者自らのものであり、環境省の見解ではありません。

## ■ 研究の内容

2017 年の内閣府男女共同参画局の調査によると、配偶者からの暴力を経験したことのあ  
る女性は 31.3%に上るとの調査結果が得られています。また、コロナ禍が始まった 2020 年  
度は 2019 年度と比較して Domestic Violence (DV) の相談件数が 1.5 倍に増加し、DV 発生  
後の取り組みや相談窓口が増えてきています。しかし、このような暴力行為を予防する取り  
組みが普及しているとは言いがたい現状があります。

こうした中、オメガ 3 系脂肪酸（青魚に多く含まれる DHA や EPA、エゴマ油やシソ油に多  
く含まれる  $\alpha$ -リノレン酸など）には暴力的・攻撃的行動の抑制効果があることが知られて  
います。しかし、これまでに男性のオメガ 3 系脂肪酸の摂取量と配偶者への暴力との関連に  
ついて、検討は行われていませんでした。

そこで、この研究では、エコチル調査に参加している妊婦さんとその配偶者の男性（各  
48065 名）を対象として、配偶者の過去 1 年間の 1 日あたりのオメガ 3 系脂肪酸摂取量（食  
物摂取頻度調査票で調査）と、妊婦さんが経験した配偶者からの暴力（身体的暴力による怪  
我の経験、侮辱されたり罵られたりといった感情的虐待）との関連を調べました。

解析の結果、以下の点が明らかとなりました。

- (1) オメガ 3 系脂肪酸摂取量が非常に高い場合を除き、オメガ 3 系脂肪酸摂取量が高いと  
配偶者に対して暴力を振るった者の割合が低かった。
- (2) この傾向は身体的暴力、感情的虐待のいずれでも認められた。
- (3) オメガ 3 系脂肪酸摂取量が非常に高い場合を含めると、全体としては右肩下がりの U  
字型カーブを描く関係にあった（図 1 参照）。配偶者に対して暴力を振るった者の割  
合の最低値は身体的暴力、感情的虐待の双方ともに、摂取量の 70 パーセントイル付  
近（上位 30%、2.17 g/day 付近）にあったが、それ以上の摂取量では横ばいないしは  
緩やかな上昇が見られ、摂取量が 99 パーセントイル（4.2 g/day 付近）を越えるま  
で最低値と統計的な差はなかった。

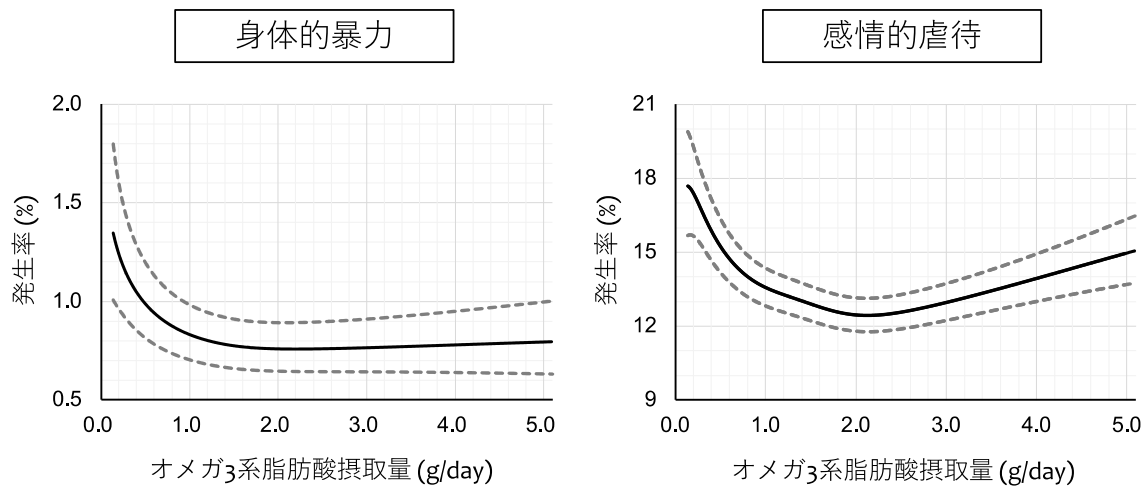


図 1. 男性のオメガ 3 系脂肪酸摂取量と配偶者（パートナーを含む）に対する暴力の関係（点線は誤差範囲）

以上の結果より、摂取量が非常に高い場合を除き、オメガ 3 系脂肪酸摂取量が高い男性は、配偶者に対して暴力を振るうリスクが低いことが示唆されました。

配偶者への暴力のリスクが最も低いのは、摂取量が 70 パーセントイル付近（上位 30%、2.17 g/day 付近）でした。非常に高い摂取量にならないと配偶者への暴力のリスクは増加せず、また摂取量が高い方はまれにしかいないというオメガ 3 系脂肪酸摂取量の分布を考えると、オメガ 3 系脂肪酸を気持ち多めに摂取するよう心がけることで、人口全体として、配偶者に対する暴力行為を減らせる可能性があると考えられます。

本研究の限界として、観察研究であるため因果関係まで扱えていないこと、参加した妊婦に対して、約半数の男性配偶者しか参加していないため選択バイアスがあること、非常に単純な質問項目を用いているため配偶者への暴力の全体像をカバーできていないこと、などが挙げられます。

ちょっと  
詳しく

### 配偶者（パートナーを含む）に対する暴力

「配偶者やパートナー間での暴力」を表す言葉として、日本では「Domestic Violence (DV)」がよく用いられています。しかし、DV は同居している全ての近親者間（夫婦・親子・兄弟・祖父母と孫など）における暴力も表します。

本研究で調査している暴力は、国際的には「Intimate Partner Violence (IPV)」と呼ばれ、同居の有無や法律上の婚姻関係の有無は問わず、配偶者やパートナー（元配偶者や元パートナーを含む）による暴力を指します。IPV には、殴る蹴るなどの身体的暴力、侮辱や暴言などの感情的虐待の他、交友関係をコントロールするなどの支配的行動、性行為や中絶の強要などの性的強要、というような行為も含まれます。

## 【「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」とは】

子どもの健康と環境に関する全国調査（以下、「エコチル調査」）は、胎児期から小児期にかけての化学物質ばく露が子どもの健康に与える影響を明らかにするために、平成 22（2010）年度から全国で約 10 万組の親子を対象として環境省が開始した、大規模かつ長期にわたる出生コホート調査です。臍帯血、血液、尿、母乳、乳歯等の生体試料を採取し保存・分析するとともに、追跡調査を行い、子どもの健康と化学物質等の環境要因との関係を明らかにしています。

エコチル調査は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを、国立成育医療研究センターに医学的支援のためのメディカルサポートセンターを、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された 15 の大学等に地域の調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が協働して実施しています。

- 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」WEB サイト

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>

- 富山大学 エコチル調査 WEB サイト

<http://www.med.u-toyama.ac.jp/eco-tuc/>



## 【論文詳細】

論文名：

Male intake of omega-3 fatty acids and risk of intimate partner violence perpetration: a nationwide birth cohort – the Japan Environment and Children's Study

著者：

松村健太・浜崎景・土田暁子・稲寺秀邦・JECS グループ

掲載誌：

Epidemiology and Psychiatric Sciences (31 巻、e45、2022 年 6 月 23 日掲載)

・ <https://doi.org/10.1017/S2045796022000294>

### 【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部医学系 公衆衛生学講座 講師 松村 健太

TEL : 076-434-7279 (直通) Email : [kmatsumu@med.u-toyama.ac.jp](mailto:kmatsumu@med.u-toyama.ac.jp)

ウェブサイト : <http://www.med.u-toyama.ac.jp/eco-tuc/>